

めざす学校像・子ども像・教員像	課題	今後の改善方策
<p>○「みんなが学ぶみんなで伸びるユニバーサルスクール東月隈」 ～一人ひとりに居場所があり、安全安心で安定した学校～</p> <p>○基本的な生活習慣を身につけ、豊かな心を持ち、夢中で学び続ける子ども</p> <p>○子どもに寄り添い、情熱を持ち、信頼される教職員</p>	確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を活かし「わかった・できた」と児童が実感でき、意欲的に参加する授業作りに取り組む。 ・読解力の向上を図る手立てを工夫する。
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・名札着用100%を目指し、各学級での取り組みを推進する。 ・道徳の授業の工夫 ・計画委員会を中心としたボランティア活動への参加を継続していく。
	若年職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研修やOJTを核とした研修を充実させ、分かる授業作りを目指す。

重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明
基礎・基本を身につけた子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自学ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%)と、担任による助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の自学ノートを活用することで、家庭学習への意欲も高まり、提出率は90%を上回ることができた。 ・計算力テストでは、全学級で伸びがみられた(1月現在2～20%)。 ・本年度、校内研究推進事業を行ったことで、研修も充実し、子どもが「できた！わかった！」と思える授業作りを意識することができた。 ・音読、読書タイムは、各学級時間設定を工夫しながら行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力の定着のための算数チャレンジの実施(月ごとの実施) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研修を通しての授業作りの工夫(全員2回の授業公開) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイム・音読タイムの実施(朝の会・帯タイムの活用) 	
豊かな人権感覚と規範意識を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のボランティア活動の推進(挨拶・掃除等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のあいさつボランティア活動は計画委員会の児童を中心に、5年6年が率先して行った。後期は低学年の児童も参加する姿が見られた。 ・GTや保護者・地域を招いての総合の授業は、各学年工夫をして実施することができた。更に内容の充実を図りたい。 ・名札点検は毎日行い、忘れた児童一人一人に丁寧な指導を行った。95%達成には至らなかったが90%は達成できている。 ・QUアンケートを全学年2回実施及び研修することで、一人一人の児童の実態把握に役立った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活かした道徳の授業の実施(低中高で1回以上) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・名札着用95%(各学級での毎日の点検) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・QUアンケートを全学年実施し、個々の児童の把握と研修の充実 	
2学期制の良さを活かした教育課程の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「共育」を進める個人面談の実施(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み、冬休み前の個人面談は、児童の様子などを保護者と共有するのにとても有効であった。また、保護者と長期休業の過ごし方や学習について一人一人の課題に応じた話ができただことは生徒指導にも役に立った。 ・実力テストを行うことが前提の長期休業中の課題なので、児童も意欲的に目標をもって取り組めた。高学年では自分の課題を克服しようとする姿も見え始めた。 ・補充学習の時間は算数・国語の復習に重点を置いた指導の時間とした。各学年の課題に沿った学習内容を重点的に行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・休業中の課題とリンクした実力テストの実施(長期休業後2回) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前の、学力補充の充実 	

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

- ・ がんばりっ子ノートの活用が、児童の自学の習慣化につながっている。また、保護者が見ることで、児童と保護者とのコミュニケーションが増している。大変よい取り組みである。
- ・ 長期休業明けの補充学習の他に、放課後には3・4年生の希望者に学習教室が開かれている。計算力テストで平均が10点上がり、成果が見られる。
- ・ 国語において、読解力の向上を図る取組が継続されている。読書の機会を今後も大切にしてほしい。
- ・ Q-Uアンケートによって学級集団の特徴を捉え、児童の帰属意識や満足度を高めようとして取り組まれている。年間に2回行われ、検証する取り組みを高く評価する。
- ・ 朝、正門に立っていると、ほぼ全員が挨拶をしている。計画委員を中心に自主的に行われる挨拶運動が低学年にも広がっており、成果が上がっている。
- ・ 長期休業を挟んだ課題が、休業明けの実力テストと結びついており、児童の自学につながっており、2学期制のよさを生かしている。